

1年間の振り返りについて

令和5年度の各教員の教育・研究等の実績については、経過措置として教員評価に代えて、「1年間の振り返り」として実施しましたので、公表します。

1 目的

各教員が一年間の活動内容を振り返り、課題・方向性を再確認し、教育・研究・地域貢献・管理運営活動への貢献を高めるとともに、各教員及び大学組織全体の教育・研究活動等の活性化を図ることにより、「地域社会と連携し、本県の保健・医療・福祉の充実に貢献する大学」の実現を目指します。

2 対象期間

令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

3 対象者

本学に所属する専任の教員（期間を定めて雇用する教員を含む。）である教授、准教授、講師、助教及び助手 46名

4 面談者

評価の客観性・公平性を高めるため、自己評価を行った後、一次評価者、二次評価者及び総括評価者による面談を行いました。

- ① 一次評価者：普遍分野及び専門基礎分野の分野長並びに専門分野の領域長
- ② 二次評価者：学部長（学部長については自己評価）
- ③ 総括評価者：学長

5 対象項目

「教育」「研究」「地域貢献」「管理運営」の4つの分野に係る教員の諸活動について、多面的に評価しました。

6 実施方法

(1) 自己評価

個人総括表の様式により、全教員が、分野毎に、評価に値する取り組み・課題・今後の方向性について自由記述で記載してもらいました。

さらに、領域総括表の様式により、専門分野の領域長は、領域における取り組み・課題・今後の方向性について自由記述で記載してもらいました。

(2) 一次評価

被評価者から提出された個人総括表、実績内訳書等による実績内容等について、面談を実施

し、精査・確認しました。

(3) 二次評価及び総括評価

被評価者の取組姿勢や組織に対する貢献度などを勘案し、評価対象分野ごとに総合的に評価を行いました。

7 教員評価の見直し

今回は経過措置として教員評価に代え、「1年間の振り返り」として、個人総括表及び領域総括表を自由記述として記載させ、個人及び領域内での課題等を確認しました。

今後は、教員の意見を踏まえ、教員評価のあり方について検討を行い、令和6年度実績分は新たな内容での教員評価を行い、さらなる大学運営の改善に活用していきます。